

## 「凡事徹底」

（鍵山秀三郎著 活学叢書）

「凡事徹底」という言葉は、昨年夏の甲子園で快挙を成し遂げた前橋育英高校のスローガンであり、このことがきっかけで世に流れたという認識がありました。またそれ以前にも同校に限らず、チームづくりの方針として掲げている指導者の方もおり勉強させて頂いておりました。ですが、勉強不足を痛感するように、遅ればせながらこの言葉の原点を知ったことで本書を読むきっかけになり今に至ります。

本書は自転車一台で行商するところからスタートしたカー用品会社（イエローハット）を一流企業にまで育て上げた鍵山秀三郎氏の経営哲学や人間哲学を深く学べる内容となっています。鍵山氏が創業以来、黙々と続けてきたのは、掃除や人が喜ぶことをするといった、誰にでもできる平凡なことであり、その実体験や生い立ちなどを交えながら素晴らしい言葉で語られています。

「微差、僅差の積み重ねが大差となる」「小さなことに目を向ける」という言葉のもとに、徹底して実践し平凡を非凡に努めることで、人からの信頼を得る。その結果、自分の力以上の仕事をいただき人生を成功に導く。言葉としては非常に平易な印象を持ってしまいがちですが、継続し実践することは容易な習慣ではなく、本書を読み言葉の奥深さを知りました。自らが何年も実践を積み重ねてこそ、より意味を理解でき、習得できる書物でもあるように感じました。

現代の激しい競争の中で、本来大切である小さなことを省いて大きな利益だけを追い求める風潮もあるように感じます。掃除や整頓などはあまりにも平凡で普通のことであり、すぐに成果を得られるものでもありません。ですが、このような信条はチームづくりをしていく上だけでなく、これからの日本の教育にも必ず必要な考え方だと思います。日本人本来の精神的な豊かさや心というものがいかに大事なものであるかということ認識し、これからの人生で突き詰めていこうとするきっかけになる一冊でした。